

令和7年9月

長

あ お ぞ ら

月

第415号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「よき思い出から思うこと」

鹿屋市立鹿屋中学校 校長 永里 護

十五夜の季節になると、小学生の頃、陸橋の下で毎年行われていた地域の子ども会による十五夜相撲を思い出す。その日の準備は小・中学生で行うことになっており、中学生の指示で地域内を周りながらわらを集め、土俵を作っていく。日が暮れると大人も多数集まり、十五夜行事が始まる。年齢や学年毎に相撲をとっては景品であるえんぴつや定規、コンパスなどの文房具をいただく。それがとても嬉しくて、今でも良き思い出の一つであり、その時の情景を思い浮かべるときに懐かしさを感じる。

地域の活動は、子供たちが年齢や学校の垣根を越えて集い、様々な地域行事を通じて、互いに学び合い、成長していく場であることは言うまでもない。

例えば、先にも述べた季節に応じた行事や清掃活動、レクリエーションなども楽しみながら地域の一員としての自覚を育むきっかけとなる。そのような活動を通して、協調性や責任感、思いやりの心、そして困難に立ち向かう力など、これからの人生に必要な多くの力と心情を身に付けることにつながる。

私が数年前に住んでいた地域は、校区の夏祭りに併せて、子ども会ごとに神輿を作成し、掛け声をしながら中心街を練り歩き、大人は熱中症対策として水まきや給水などをしながら一緒に楽しむ行事があった。しかし、近年においては会員数の減少や恒例行事の削減傾

向が見られ、活動への参加が年々難しくなっている状況である。さらに、コロナ禍の影響もあり、今では行われなくなっていると聞いている。とても残念なことであるが、一度、中止した行事を復活させるには大きなエネルギーを要することは言うまでもない。

今、自身の小・中学生の頃に体験した様々な地域活動を思い返してみると、地域花見会での出し物や公民館対抗ソフトボール大会、クリスマス会など、年間を通して楽しかった多くの思い出が、当時の保護者や地域の方々の事前の準備のもとにつくられたものであり、感謝の念が尽きないところである。

地域の活動は、学校や保護者、地域の方々の理解と協力なしでは成り立たないものである。そして、行事の企画や準備、当日の運営に尽力してくださる方々の支えがあり、三者が協力し合うことで新たなつながりが生まれ地域の中に豊かな人間関係が築かれてこそ、子供たちの笑顔が生まれ、それが思い出となる。その思い出の演出者としての一人になるよう努めて行きたい。

